

大豆「おおすず」の栽培法

柳 野 利 哉・熊 谷 憲 治・伊 東 秀 則*

(青森県畑作園芸試験場・*青森県農業研究推進センター)

Cultivation Method of Soybean Variety "Ohsuzu"

Toshiya YANAGINO, Kenji KUMAGAI and Hidenori ITO*

(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station・
*Aomori Prefectural Agricultural Research Promotion Center)

1 はじめに

青森県で奨励品種としての採用が内定している、東北農試育成の大豆「おおすず」(東北112号)は、大粒白目で品質が良いことに加えて、短茎で耐倒伏性が強く、機械収穫に適した品種である。本品種に適する播種期と、コンバイン収穫を想定した栽植本数について検討した結果を報告する。

2 試験方法

(1) 1994年

播種期を5月6日、16日、26日の3段階、栽植本数を11.4本/㎡(うね幅70cm, 株間12.5cm, 1株1本立), 19.0本/㎡(株間7.5cm)の2段階に設定した。施肥はa当たり窒素0.3kg, リン酸1.5kg, 加里1.0kgを全量基肥とした。試験は1区16.8㎡, 2区制で行った。

(2) 1997年

播種期を5月6日、16日、28日の3段階、栽植本数を11.4

本/㎡(うね幅70cm, 株間12.5cm, 1株1本立), 14.3本/㎡(株間10.0cm), 19.0本/㎡(株間7.5cm)の3段階に設定した。施肥はa当たり窒素0.3kg, リン酸0.9kg, 加里0.6kgを全量基肥とした。試験は1区15.4㎡, 2区制で行った。

3 試験結果及び考察

(1) 1994年

7, 8月が記録的な高温, 多照に経過して開花期, 成熟期が早くなり, a当たり収量は40~45kg/aと極めて多収となった。播種期については5月中旬, 栽植本数は密植区の方が収量が多い傾向となった。最も主茎長が長くなった5月16日播種, 19.0本区でも, 倒伏程度は少~中にとどまり, 高温年に19.0本/㎡程度の密植としても倒伏の恐れは少ないことが示された。

(2) 1997年

5月の低温で出芽が遅れたが, 6, 7月が高温に経過して開花期はやや早まった。a当たり収量は30~35kg/aと比較的多収となったが, 播種期や栽植本数の影響は判然と

表1 播種期, 栽植本数と生育, 収量

(1994年)

播種期	栽植本数	開花期	成熟期	倒伏程度	主茎長	分枝数	子実重	同左比	百粒重
(月. 日)	(本/㎡)	(月. 日)	(月. 日)		(cm)	(本)	(kg/a)		(g)
5. 6	11.4	7. 22	10. 8	無~微	80.3	5.0	39.8	90	40.2
5. 6	19.0	7. 22	10. 8	微	83.7	4.5	40.8	92	39.9
5. 16	11.4	7. 22	10. 11	微~少	82.3	5.6	44.3	(100)	39.6
5. 16	19.0	7. 25	10. 12	少~中	86.1	5.2	45.1	102	38.4
5. 26	11.4	7. 26	10. 12	微	75.9	5.4	37.3	84	39.9
5. 26	19.0	7. 26	10. 12	微	78.0	4.9	41.7	94	39.0

表2 播種期, 栽植本数と生育, 収量

(1997年)

播種期	栽植本数	開花期	成熟期	倒伏程度	主茎長	分枝数	最下着英位置	子実重	同左比	百粒重
(月. 日)	(本/㎡)	(月. 日)	(月. 日)		(cm)	(本)	(cm)	(kg/a)		(g)
5. 6	11.4	7. 26	10. 16	少	63.5	3.6	10.1	35.9	107	42.5
5. 6	14.3	7. 26	10. 16	微~少	69.2	3.0	12.1	31.8	95	41.0
5. 6	19.0	7. 26	10. 16	少	69.2	2.1	11.9	34.5	103	42.1
5. 16	11.4	7. 29	10. 16	少	67.0	3.6	13.4	33.4	(100)	40.9
5. 16	14.3	7. 29	10. 16	少	67.7	2.9	15.0	31.3	94	40.3
5. 16	19.0	7. 29	10. 16	少	74.4	2.2	17.4	33.1	99	40.6
5. 28	11.4	7. 31	10. 16	少	71.4	4.2	15.9	32.1	96	39.5
5. 28	14.3	7. 31	10. 16	少	72.7	3.5	16.4	31.9	96	39.8
5. 28	19.0	7. 31	10. 16	微~少	72.6	2.5	18.8	32.8	98	40.8

しなかった。倒伏は全般に少なかった。最下着莢位置は、播種期が遅く、密植の区で高くなる傾向が認められた。百粒重は、播種期の遅い区がわずかに小さくなった。

4 ま と め

2カ年の試験結果からは、5月播種、 m^2 当たり11～19本の範囲では収量差はさほど大きくなく、栽培条件に対する適応幅は比較的広いと考えられた。

本品種は中生種であり、早播きでの過繁茂や晩播による登熟不足の恐れは少ないと思われた。青森県での播種適期の幅は、これまでの品種より長く、5月上旬から下旬までと見られる。

本品種は耐倒伏性が強く、密植により最下着莢位置が高くなり、機械収穫に適した草姿となる。コンバイン収穫を前提とした栽植本数は、これまでの中晩生品種の基準より密植の、 m^2 当たり19本程度が良いと考えられる。